



【専門分野】文化遺産の社会学、地域社会学 環境社会学

【研究紹介】

ローカルな景観や生業の側面から、社会・文化・自然の相互作用を通して地域社会やそこでの生活がいかに関立・変容しうるかを研究しています。

現在は小規模漁業などを調査対象にして、グローバル／ナショナルな自然環境、文化的価値、制度政策の変動下での、ローカルな社会構造・社会関係、生業・生活実践の再編のありようを実証的に研究し、社会の持続可能性を考えるための理論的寄与を目指しています。

【著書・論文】

「生業の継承における遺産化の影響—鳥羽市相差町の海女漁の事例から—」,東海社会学会年報(13),118-132, 2021年

『社会学で読み解く文化遺産 —新しい研究の視点とフィールド』,新曜社, 2020年(共著)

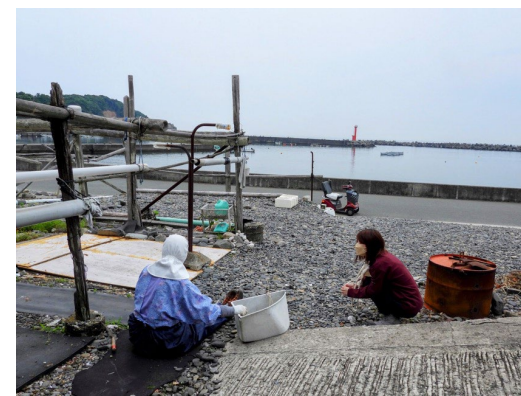
「生業の遺産化と「振興」をめぐる力学 —三重県鳥羽市における海女漁の事例から—」,環境社会学研究(25), 186-201, 2019年
ほか



石川県金沢市ひがし茶屋街の景観



三重県鳥羽市の海女漁



海女とのインタビュー調査